

所報 2023

おおすみ



御岳山頂【登山教室】



沢遊び【ファミリーキャンプ】

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家



はじめに

近年、少子化や子どもたちの生活の多様化、家庭環境の変化等により、子供の体験活動の場や機会は減少傾向となっている。一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、子供の体験活動の減少に拍車がかかっていることを踏まえて、令和4年6月に当時の文部科学大臣より「子供の体験活動推進宣言」が公表され、企業等とも連携したりアルな体験活動を推進することとした。また、子供の体験活動を推進するために、企業、教育委員会、青少年団体等、子供の体験活動に携わる実務者による「子供の体験活動推進に関する実務者会議」を設置し、体験活動に関する推進方策をとりまとめたところである。

当国立大隅青少年自然の家「おおすすめくん家」は、背後に高隈山系、眼下に錦江湾と豊かな自然環境に囲まれたところに立地しており、その自然資源を活かし海浜活動、ハイキング、自然工作、野外炊事等のプログラムを提供しています。

当施設の利用については、年度当初から宿泊室、食堂、研修室や野外炊飯場などの定員をおおむね半分に減らすなど三密を避けた利用をお願いするとともに、所内各所にアルコール除菌スプレーを設置するなど新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行いました。そのような中でも令和4年度は、小中学校の宿泊学習や青少年団体の活動、高校・大学の合宿、企業研修等日帰りも合わせ約3万1千人の方々にご利用いただきました（令和2年度は約1万9千人、令和3年度は約2万4千人）。

また当施設が主催して行う教育事業については、新型コロナウイルスの感染拡大により当初の計画から2事業を中止としましたが、青少年や家族を対象とした体験活動事業や指導者等の研修に関するものなど計23事業を行いました。

新規教育事業としては、鹿児島高専と連携したロボット・プログラミング体験教室、御岳山頂で御来光を眺めた登山教室、7mの壁にチャレンジしたスポーツクライミング教室、約2,800人の来場者があったJR鹿児島中央駅アミュ広場でのフェスティバル秋など、多数の方々にご参加いただき充実した事業となりました。また、指導者等の養成・資質向上に関しても4事業行い、つながり作りの絶好の機会ともなりました。さらに、全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿では、2年連続で最高賞の文部科学大臣賞を受賞することができました。

本報告書はこれら教育事業の実施概要とその成果と課題についてまとめたものです。是非ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご助言等いただければ幸いです。

おわりに、当施設の事業運営にご支援・ご協力をいただきました関係機関、関係各位の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和5年9月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家
所 長 吉 松 純 昭

目 次

はじめに

I	令和4年度教育事業等の開催一覧	1
II	教育事業等の実施状況	
	ファミリーキャンプ（特色化事業）	3
	地域探究プログラムオリエンテーション合宿	4
	体験活動普及啓発事業 ファミリーキャンプ①③④	5
	体験活動普及啓発事業 キッズたんけんたい	8
	体験活動普及啓発事業 おおすみくん家通学合宿	9
	体験の風をおこそう スポーツキャンプ 女子バレーボール	10
	体験の風をおこそう スポーツキャンプ バスケットボール	11
	体験の風をおこそう ロボット・プログラミング体験教室	12
	体験の風をおこそう 登山教室	13
	体験の風をおこそう スポーツクライミング体験教室	14
	体験の風をおこそう ファミリー防災キャンプ	15
	体験活動普及啓発事業 ファミリーキャンプ⑤	16
	おおすみくん家に遊びに来ませんか！！	17
	子ども生き生き体験学習	18
	NEALリーダー養成研修	19
	企画指導専門職研修会	20
	ボランティア養成研修	21
	ボランティア交流会	22
	体験の風をおこそう フェスティバル秋inアミュ広場	23
	体験の風をおこそう フェスティバル冬	24
III	令和4年度における傷病発生状況	25
IV	利用者数・利用団体数の推移	27
V	令和5年度 国立大隅青少年自然の家運営方針	
	1 基本的な運営方針	29
	2 事業運営に関する重点事項	29
	3 教育事業の質の充実と普及	29
	4 研修支援の充実との利用拡大	32
	5 安全安心な教育環境の確保	33
	6 業務運営に関する事項	34
VI	令和5年度 教育事業等の計画一覧	36

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

V 令和4年度教育事業等計画一覧

I 青少年教育に関するモデル的事業

1 実践研究事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。また、実践研究として体験活動の重要性の普及に努める。	8. 11(木)～16(火) 5泊6日	小学5年生～高校生	32	コロナ関連中止

2 特色化事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
2	ファミリーキャンプ②(漂流物)	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。また、漂流物を通して、環境問題に自ら取り組むきっかけとする。	6. 25(土)～26(日) 1泊2日	家族	10組 40	9組35(100組)

3 地域探究プログラム

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
3	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見出したりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。	7. 16(土)～18(祝月) 2泊3日	県内高校1・2年生	15	7(同)

II 社会の要請に応える体験活動等事業

1 自然体験や読書活動等に親しむ事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
4 5 6	ファミリーキャンプ①・③・④	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。	①5. 28(土)～29(日) 1泊2日 ③7. 23(土)～24(日) 1泊2日 ④8. 27(土)～28(日) 1泊2日	家族	10組 40	①10組41(56組) ② 9組36(56組) ③10組38(57組)
7	おおすみくん家 キッズたんけんたい	小学校中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わる活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。	10. 29(土)～30(日) 1泊2日	小学3・4年生	40	35(99)
8	おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。	1月～2月(4週8回)内で2泊3日	小学4～6年生	各40	全175(190)

2 自己成長や自己実現を図る事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
9	おおすみくん家 スポーツキャンプ【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	6. 18(土) 1日	中学生部員及びその指導者	80	4チーム47(同)
10	おおすみくん家 スポーツキャンプ【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 23(土) 1日	中学生部員及びその指導者	80	コロナ関連中止
11	おおすみくん家 スポーツキャンプ【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 30(土) 1日	中学生部員及びその指導者	80	1チーム11(同)
12	ロボット・プログラミング体験教室	ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会となる。	10. 15(土) 1日	小学5年生～中学生	30	24(同)
13	登山教室	登山を通して、自然と関わることの素晴らしさやスポーツとしての登山の楽しさを味わう。	11. 5(土)～6(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	30	16(同)
14 15 16 17 18	スポーツクライミング教室①～⑤	スポーツクライミングを通して、普段の動きとは違う体の使い方を体験し、自分のペースで目標を目指し、達成感を味わう。	①11. 5(土) ②11. 26(土) ③12. 24(土) ④1. 21(土) ⑤1. 28(土)	子ども・家族	各50	①31(182) ②32(165) ③31(63) ④30(140) ⑤25(86)

3 防災・減災教育事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
19	防災ファミリーキャンプ	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。また、災害について、親子で必要な知識を得るとともに、防災への意識を高める。	11. 19(土)～20(日) 1泊2日	小学5年生以上の子ど もが家族	10組 40	10組34(31組)

4 その他

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
20	ファミリーキャンプ⑤(書道)	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。また、書道に親しむことで、自己肯定感や想像力を育む機会とする。	10. 9(日)～10(祝月) 1泊2日	家族	10組 40	9組33(70組)

Ⅲ 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
21 22 23 24 25	おおすみくん家に遊びに来ませんか！①～⑤	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生が自然体験・生活体験等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	①6. 18(土) ②9. 3(土) ③10. 15(土) ④11. 19(土) ⑤1. 21(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生	各10	①10(同) ②5(同) ③21(同) ④21(同) ⑤9(同)
26	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験・生活体験等を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。	7. 28(木)～29(金) 1泊2日	児童養護施設の児童生徒	20	9(同)

Ⅳ 青少年教育指導者等の養成・資質向上研修

1 青少年教育指導者等の養成・研修事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
27	自然体験指導者(NEALリーダー)養成事業	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	12. 9(金)～11(日) 2泊3日	高校生以上	20	11(13)
28	企画指導専門職員研修会	九州の国立青少年施設職員に対して、青少年教育に関する基礎的・専門的カリキュラムを通して、資質・能力の向上を図る。	1. 17(火)～18(水) 1泊2日	国立施設職員	20	20(同)

2 ボランティアの養成・研修事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
29	ボランティア養成講座	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 4(土)～5(日) 1泊2日	15歳以上・一般	40	40(41)
30	ボランティア交流会	ボランティア同士の交流を通して、スキルアップを目指し、全国的にネットワークを広げることでその普及に努める。	12. 17(土)～18(日) 1泊2日	16歳以上・一般	40	10(同)

2 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	参加者数(応募者数)
31 32 33	宿泊学習等利用者説明会①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	①4. 14(木) ②4. 21(木) ③8. 24(水)	学校・青少年団体等の 引率者	各20	①24校28(同) ②22校21(同) ③25校33(同)
34 35	子どもゆめ基金募集説明会【宮崎会場】【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和5年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	宮 崎 9. 10(土) 鹿児島 9. 11(土)	申請予定団体	各50	宮崎2団体3 鹿児島8団体10
36	体験の風をおこそうフェスティバルinアミュ広場 秋	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	10. 23(日)	子ども・親・一般	500	2801
37	地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動の宮崎県への啓発活動	国立青少年施設のない県に啓発活動を行うことで、地域で一体となって体験活動を推進する機運を高めるとともに、体験活動の機会と場を提供する。	11. 15(火)	関係団体	-	-
38	体験の風をおこそうフェスティバルinおおすみくん家 冬	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	12. 4(日)	子ども・親・一般	300	636

令和4年度 地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業） ファミリーキャンプ②

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和4年6月25日（土）～26日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 9家族35人（申し込み：100家族）
- 6 指 導 者 坂口俊哉氏（鹿屋体大講師）ほか2人
国立大隅青少年自然の家職員3人



7 日 程

6月25日（土）	6月26日（日）
12:50 受付	6:00 起床・洗面・着替え・テント撤収
13:00 出合いのつどい	7:00 朝食「カートンドッグ作り」
13:30 漂流物クラフト体験	8:00 カヌー・水辺遊び体験
16:00 テント設営	11:00 アンケート記入・別れのつどい
17:00 野外炊飯「バーベキュー」	11:30 シャワー・解散
19:00 家族の時間・自由交流 入浴（19:00～21:45）	
22:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 指導担当職員を多めに配置し、カヌー体験や水辺遊び体験の安全確保に努めた。
- 保護者2人・子ども1人の家庭が多かったため、家族間の交流が持てるように、事前に了承をとり2家族で1釜の炊飯を行った。
- 雨天予報が出されていたので、なるべく全てのプログラムを行えるよう、直前まで日程・場所を検討し臨機応変に対応した。

9 参加者の感想

- いつもおすみくん家のイベントは楽しく参加させていただいています。今回も家族でよい思い出ができました。ありがとうございました。
- 初めて参加しましたが、いろいろな人と話したり協力して作業したり楽しかったです。
- キャンプは家族でよくするのですが、カヌー体験がお天気の中でできたことが何より思い出になりました。2日間ありがとうございました。
- 海活動は、子どもよりも親の方が楽しんだのではないかなというくらい楽しむことができました。

10 成果と課題

- 天候不良のため当日日程変更を行ったが、無事海浜施設で全ての活動を行うことができた。
- 海浜活動は気温も高く照り返しも強い等天候が大きく変動したが、休憩や水分補給の声かけを行い、最後まで安全に活動できた。
- 雨で地面が濡れていたが、屋根のあるところへテントを張り、スムーズに片付けまで行えた。
- 施設の老朽化に伴う整備不足の指摘が多くあった。職員で対応すること、利用者へお願いすること等を精査し迅速に対応したい。
- 家族ごとに行動に差があり説明をまとめて行うことが難しく、あまり説明しなくても活動できるような準備も検討したい。

令和4年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿

1 趣 旨 地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見いだしたりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。

2 期 日 令和4年7月16日(土)～7月18日(祝月)2泊3日

3 対 象 者 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍か年齢にある者

4 募集定員 15名

5 参 加 者 7名

6 指 導 者 神田 ゆかり氏(鹿屋市観光協会観光事業推進員)

迫 睦子 氏(鹿屋平和学習ガイド)

上原 義史 氏(高須まち歩きガイド)

大隅青少年自然の家職員



7 日程など

7月16日		7月17日		7月18日	
9:00 ～ 9:20	受付	7:00 ～ 9:00	朝食・記念撮影	7:30 ～ 8:30	朝食・準備
9:30 ～ 10:20	ガイダンス1h	9:00 ～ 9:50	講義・演習 「課題解決の基礎」2h	9:00 ～ 9:50	講義・演習 「行動計画の基礎」2h
10:20 ～ 11:10	講話 「地域づくりの実践」1h	9:50 ～ 10:40		9:50 ～ 10:40	
11:10 ～ 11:15	準備	10:40 ～ 11:30	フィールドワーク1h	10:40 ～ 11:30	発表1h
11:15 ～ 12:15	昼食・休憩	11:30 ～ 12:30	昼食・休憩	11:30 ～ 12:30	昼食・休憩
12:15 ～ 13:05	フィールドワーク①4h	12:30 ～ 14:10	フィールドワーク②2h	12:30 ～ 13:30	実践活動のための ガイダンス1h
13:05 ～ 13:55		14:20 ～ 15:10	講義・演習 「地域課題の探究」3h	13:30 ～ 14:00	閉講式
13:55 ～ 15:35		15:10 ～ 16:00		16日【導 入】4科目 8 単位 17日【探 究】4科目 9 単位 18日【地域課題】3科目 4 単位 ※計21単位(50分＝1単位)	
16:00 ～ 16:50	講義・演習 「地域理解」2h	16:00 ～ 16:50			
16:50 ～ 17:40		16:50 ～ 17:40	発表1h		
18:00 ～ 19:00	諸連絡・夕食	18:00 ～ 19:00	諸連絡・夕食		
19:00 ～ 20:00	入浴	19:00 ～ 20:00	入浴		
20:00 ～ 21:30	自主学習・自由交歓	20:00 ～ 21:30	自主学習・自由交歓		

8 事業運営の配慮

- 昨年度に引き続き個別参加型の応募としたため、参加者の探究意欲が非常に高かった。
- 全参加者が同じフィールドワークを経験することで、グループワークや議論が活発になった。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を事前に実施していたため、対策意識も高かった。
- 趣旨説明や目標など、鹿屋市観光協会との打合せを丁寧に行った。

9 参加者の感想

- 貴重な経験ができてよかった。
- ガイドの魅力や町並みの素晴らしさを感じることができた。

10 成果と課題

- 個別参加型のため、積極性や意欲のある生徒が参加し、活気あるグループワークや議論ができた。
- フィールドワークやグループワークを通して、参加者同士、ガイドの方々との関係作りができた。
- 参加者増のための手立てが必要である。



令和4年度 体験活動普及啓発事業 ファミリーキャンプ①

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和4年5月28日（土）～29日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 10家族41人（申し込み：56家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員4人



7 日 程

5月28日（土）		5月29日（日）	
12:50	受付	6:00	起床・洗面・着替え・テント撤収
13:00	出合いのつどい	7:00	朝食「カートンドッグ作り」
13:30	カヌー・サンドクラフト体験	8:30	サンドスケッチ体験
15:30	テント設営		
16:30	野外炊飯「バーベキュー」		
19:00	家族の時間・自由交流 入浴（19:00～21:45）	10:50	アンケート記入・別れのつどい
22:00	消灯・就寝	11:30	解散

8 事業運営上の配慮

- 発達段階に応じたサンドスケッチが体験できるよう、2種類の教材を準備した。
- 安全な海浜活動が実施できるよう、指導担当職員を多めに配置し、カヌー体験やサンドクラフト体験を実施した。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に除菌シートと健康チェックシートを配布し、防止対策の協力を呼びかけた。さらに、炊飯は1ファミリー1羽釜、カヌー体験も1ファミリー1艇とし、ファミリー同士の接触ができるだけ発生しないように企画・運営した。

9 参加者の感想

- 何もわからず右往左往していましたが、手取り足取りサポートしてくださりありがとうございました。子どもがとてもお世話になりました。帰りたくないと言っています……。是非また、応募しますので、よろしくお願いします。カートンドッグ、とても美味しかったです。
- コロナ禍で、準備等大変だったと思います。スタッフの方々、開催して下さいありがとうございました。家族で初キャンプ！とても楽しい時間でした。また是非ファミキャンに参加したいです。（くじ運があれば……。(^-^;)）
- 職員の方々に教えていただきながら家族で協力してキャンプができて楽しく過ごせました。カヌーは初めてでしたが、子どもたちはとても楽しそうでした。2日間ありがとうございました。

10 成果と課題

- 天候悪化予報が出ていたため直前の日程変更を行ったが、計画していたプログラムで実施できた。参加者は海浜施設でのバーベキューやテント泊、カヌー体験ができ大変喜んでいました。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。
- 今回も多くのファミリーに申し込みを頂いたが、参加できたのは10ファミリーだけであった。ニーズにいかに対応していくかが今後の課題である。

令和4年度 「体験活動普及啓発事業」 ファミリーキャンプ③

- 1 趣 旨 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、体験活動の機会や多くの家族が交流できる場をつくり、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。
- 2 期 日 令和4年7月23日（土）～24日（日）1泊2日
- 3 参加対象 自然体験活動に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 9家族36人（申し込み：56家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人、法人ボランティア3人
- 7 日 程

7月23日（土）		7月24日（日）	
10:45	受付	6:00	起床
11:00	出合いのつどい 沢遊び・昼食		朝食（野外炊飯）
15:30	テント設営	9:00	ブッシュクラフト体験 テント撤収など
17:00	夕食（野外炊飯）	11:00	アンケート記入・別れのつどい
19:45	入浴		解散
20:30	星空観望		
22:00	消灯・就寝		

8 事業運営上の配慮

- ファミリーでのキャンプが初めての家族が多かったため、参加者決定後にこまめに電話を入れ、心配や不安なことなどをできるだけ解決するようにした。
- 参加決定者へ事前に説明動画を案内（食事貸出道具、沢遊び服装、テント設営）し、当日のイメージがしやすくなるよう工夫した。
- キャンプ時のマナーを認識させるペーパーを作成し、説明する時間を設けた。
- 夏の暑さを考慮し、沢をフィールドにすることで涼しく活動できるよう、配慮して企画した。

9 参加者の感想

- とても楽しかったです。ハンモックが最高でした。沢登りも自分たちだけではできないのでとてもいい体験になった。
- 子どもたちには全て初体験で、とても良い経験ができた。
- 暇と思う活動がなく、最後まで飽きずにできた。
- 夜や朝の気持ちよさが最高でした。また子どもたちものびのび楽しそうだった。
- 沢登りが思ったより楽しくて、大人も自然体験ができました。ブッシュクラフトを初体験で楽しかった。

10 成果と課題

- フィールドを川に設定することで、夏でも涼しい中活動が実施できた。
- 時間にゆとりをもたせたため、参加者の活動（準備から片付けまで）をしっかりと指導することができた。
- 事業実施後、参加者がすぐに次回の申込みの相談をしてくれた。
- 2日目の午前の時間を使ってテント撤収を行ったが、広場に日陰がないため、負担がある。
- 貸出物をあまり多くしすぎること、準備の負担が増える。



令和４年度 「体験活動普及啓発事業」 ファミリーキャンプ④

- 1 趣 旨 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、体験活動の機会や多くの家族が交流できる場をつくり、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。
- 2 期 日 令和４年８月２７日（土）～２８日（日）１泊２日
- 3 参加対象 自然体験活動に興味のある家族
- 4 募集定員 １０家族４０人程度
- 5 参 加 者 １０家族３８人（申し込み：５７家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員３人、法人ボランティア３人
- 7 日 程



８月２７日（土）		８月２８日（日）	
10:45	受付	6:00	起床
11:00	出合いのつどい 沢遊び・昼食	7:30	朝食（野外炊飯）
15:30	テント設営	9:30	ブッシュクラフト体験
17:00	夕食（野外炊飯）	10:30	テント撤収など アンケート記入
19:45	入浴	11:30	別れのつどい 解散
20:30	星空観望		
22:00	消灯・就寝		

8 事業運営上の配慮

- ファミリーによるキャンプが初めての家族が多かったため、参加者決定後に適宜連絡を取り、心配や不安なことを解消するよう努めた。
- 参加決定者へ事前に説明動画を案内（食事貸出道具、沢遊び服装、テント設営）し、当日のイメージが湧きやすくなるよう工夫した。
- キャンプ時のマナーを認識させる案内書を作成し、説明する時間を設けた。
- 夏の暑さを考慮し、沢をフィールドにすることで涼しく活動できるよう、配慮して企画した。

9 参加者の感想

- 全部良かったのですが、一番良かったのはハンモックでの星空を眺めて、流れ星を見たことです。
- 沢遊び、近くにこんな場所があることを知りませんでした。魚取りを楽しんでいました。
- 色々な企画を入れて、道具も貸出してくれたので楽しかったです。ハンモックは良かった。
- 体験プログラムで楽しみつつ、自分たちのゆっくりする時間もあったのでとても良かったです。
- 普段できない体験をプログラムに組み込まれていて、子どもも大人も楽しむことができました。
- こんなにきれいな星空を見たのは何年ぶりだったかと。本当にきれいでした。フェザースティックも今までする機会がなかったので体験できて良かったです。

10 成果と課題

- フィールドを川に設定することで、夏でも涼しい中で活動できた。
- 時間にゆとりをもたせたため、参加者の活動（準備から片付けまで）をしっかりと指導することができた。
- 道具の貸し借り場所をクラフト A からピロティに変更することで、運営側の負担が軽減されたこともあり、今後も貸し借り場所は検討が必要である。



令和4年度 「体験活動普及啓発事業」 キッズたんけんたい ～本と自然にふれる2日間～

- 1 趣 旨 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、体験活動等の機会が減少していることを踏まえ、体験活動の機会や多くの子どもが交流できる場をつくり、体験活動等の重要性を広く普及・啓発する。
- 2 期 日 令和4年10月29日（土）～30日（日）1泊2日
- 3 参加対象 小学3・4年生
- 4 募集定員 40人
- 5 参加者 35人（申し込み：99人）
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人、法人ボランティア3人
絵本専門士 西元 道子氏



7 日 程

【1日目】		【2日目】	
13:00	受付・出会いのつどい		起床、朝の読書
14:00	仲間づくり 絵本専門士による保護者向け説明	7:30	朝食 野外調理
15:30	テント設営(本館泊) 入浴	9:00	森の探検活動 (レクリエーション)
17:00	絵本専門士による読み聞かせ	11:00	テント撤収・片付け
18:00	夕食・レストラン	11:30	別れのつどい
19:00	夕べの読書や天体観望など 就寝	11:45	解散

8 事業運営上の配慮

絵本の理解をより進められるよう、絵本専門士によるプログラムを企画した（保護者向けの絵本の有用性に関する説明会、子ども向けの絵本の読み聞かせ）。2日目には、子どもたち向けに森の体験活動（ネイチャービンゴ）を取り入れることで、絵本で知った生き物や植物などに実際に会うことで、より実感を沸かせることを狙いとした。また、子どもたちのみの宿泊キャンプを実施するにあたって、時間のゆとりを持たせるスケジュールを作った。

9 参加者の感想

- 初めて泊まって楽しかった。自然のことをいっぱい知れた。
- テントを建てるのが難しかった。家で寝る時よりも寝れないしとても寒かった。新しい友達ができ楽しかった。自然のことを楽しく学べた。
- おおすみくんにいっぱい自然があることに気づいた。
- 世界にはたくさんの植物、動物がいるんだと初めて知った。
- みんなが優しくしてくれるし、とっても楽しかった。おうちで見れないものがたくさんあった。
- 最初はドキドキしたけどリーダーが優しく手伝ってくれたから、お友達と仲良くできた。

10 成果と課題

- 保護者と子どもそれぞれに、主題である「絵本」について絵本専門士のプログラムを実施できたことは、参加者の深い学びに繋がった。
- 保護者向けにも説明会のアンケートをとることと、シュラフの使い方を含めた道具の使い方の説明時間をしっかりと設定することが必要。



令和4年度 体験活動普及啓発事業 「おおすみくん家 通学合宿」

- 1 趣 旨 集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら、普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、生きる力を育てる。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 期 間 令和5年1月23日（月）～ 2月17日（金）
この期間に、学校ごとに2泊3日の実施期間を指定する。
（計4週 8回）
- 4 対 象 者 鹿屋及び垂水市内の小学4～6年生児童
（学校までの所要時間約30分程度）
- 5 募集定員 各回30人程度
（計8回 申込み190名 175名参加）
- 6 講 師 絵本専門士 西元 道 子 氏（鹿児島第一幼稚園園長代理）
有馬 こずえ 氏（ちえの木の实）
森 ゆかり 氏



7 日 程

開始日		2日目		最終日	
		6:00	起床・身支度・清掃	6:00	起床・身支度・清掃
		6:50	朝食	6:50	朝食
	<u>保護者により自然の家まで送る</u>	7:30	<u>自然の家バスで登校</u>	7:30	<u>自然の家バスで登校</u>
	受付	8:00	学校生活	8:00	学校生活
	出合いのつどい	16:15	<u>自然の家バスで下校</u>	放課後	学校から帰宅
17:00	オリエンテーション	ごろ	※学校の校時表通り		
17:15	夕食	17:00	学習		
18:00	宿泊室へ移動	18:00	夕食		
18:30	入浴	19:00	入浴		
19:00					
20:00	学習または絵本専門士による読み聞かせ	20:00	学習または絵本専門士による読み聞かせ		
21:30	翌日の準備	21:30	翌日の準備		
22:00	就寝	22:00	就寝		



- 8 事業運営上の配慮
 - 感染防止対策として、宿泊室や入浴時に別の学校と交わらない人数・時間設定にした。
 - 担当3職員と連携して、配慮が必要な児童の共有及び安全面への配慮を行った。
 - 起床時や就寝前の健康状況をチェックし、健康状況の把握に努めた。
- 9 参加者の感想
 - 普段あまり話をしない人と、たくさん話すことができた。友達も増えたので参加してとても良かったです。
 - 時間を守って生活することで、規則正しい生活ができました。家に帰ってからもできるように頑張りたいです。
 - この年になって、絵本を読む機会がほとんどなかったのが、とても新鮮でした。小学生が絵本を読んでもとても楽しいものだとなりました。
- 10 成果
 - 他校の児童や他学年の児童と交流を深め、友達の輪を広げさせることができた。
 - 普段の自分の生活を客観視するとともに、親のありがたみを感じさせることができた。
 - 読書活動を通して、本を読む楽しさや多くの情報を得るなど、読書の有用性を感じさせることができた。

令和4年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 鹿屋体育大学との連携による おおすみくん家 スポーツキャンプ ～女子バレーボール～

- 1 趣 旨 鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。
- 2 共 催 国立大学法人 鹿屋体育大学
- 3 期 日 令和4年6月18日（土）
- 4 対 象 者 中学校女子バレーボール部員及び指導者
- 5 募集定員 40人程度
- 6 参 加 者 4チーム47人（申し込み同数）
- 7 指 導 者 鹿屋体育大学 女子バレーボール部 監督 濱田幸二 氏
同 コーチ 坂中美郷 氏
同 コーチ 沼田薫樹 氏
同 部員



8 日 程

6月18日（土）	
8:30	受付（鹿屋体育大学）
9:00	開講式
9:30	練習①（鹿屋体育大学女子バレーボール部による指導）
12:00	昼食
13:00	練習②（鹿屋体育大学女子バレーボール部による指導）
15:30	閉講式
16:00	解散

9 事業運営上の配慮

新型コロナウイルス感染対策として、参加者に2週間前からの検温と体温記録表の提出、当日の受付での検温、使用したボールの消毒等を依頼することで、安心して参加いただくことができた。
また、練習場所を2会場（3面）に分けることにより、密を避けて実施することができた。

10 参加者の感想

- 鹿屋体育大学女子バレーボール部のみなさんが丁寧に教えてくれて、チームもすごくよかった。
- 他校とのふれあいもでき、とても学習できた部分があった。
- 初心者が多いチームにも合わせたメニューを考えていただきとてもありがたかった。

11 成果と課題

- 鹿屋体育大学女子バレーボール部員が紅白試合を参加者に披露し、その後参加者と大学生の混成チームで試合をすることで、参加者は高い技術や力強いプレイを目の当たりにできた。
- レベルの高い基礎練習が組まれていて、参加者の満足度が高かった。
- 実施時期が中学校期末テスト期間となっている学校が多かったため、開催時期を再検討する必要がある。



令和4年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 鹿屋体育大学との連携による おおすみくん家 スポーツキャンプ ～バスケットボール～

- 1 趣 旨 鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。
- 2 共 催 国立大学法人鹿屋体育大学
- 3 期 日 令和4年7月30日（土）
- 4 対 象 者 中学校バスケットボール部員及び指導者
- 5 募集定員 80人程度
- 6 参 加 者 1チーム11人（申し込み同数）
- 7 指 導 者 鹿屋体育大学 バスケットボール部 監督 三浦 健 氏
同 部員



8 日 程

7月30日（土）	
8:40	受付（鹿屋体育大学）
8:50	開講式
9:00	練習①（鹿屋体育大学バスケットボール部による指導）
12:30	昼食
13:30	練習②（鹿屋体育大学バスケットボール部による指導）
17:00	閉講式
17:10	解散

9 事業運営上の配慮

新型コロナウイルス感染対策として、参加者に2週間前からの検温と体温記録表の提出、当日の受付での検温、使用したボールの消毒等を依頼することで、安心して参加いただくことができた。

10 参加者の感想

- すごくいい経験になった。
- ドリブルが早くなった。
- 使える技が増えた。
- カッティングがしっかりとできるようになった。
- ハンドリング等が上達した。
- チームワークも高まり、バスケットボールへ取り組むモチベーションが上がった。

11 成果と課題

○鹿屋体育大学バスケットボール部員と実戦形式で試合を行い、参加者は高い技術や力強いプレイを体験できた。

○レベルの高い基礎練習が組まれていて、参加者・指導者の満足度が高かった。

●鹿屋体育大学側からの直前のコロナ陰性証明要請により、抗原検査キットが揃えられず、やむを得ず辞退する学校があったため、来年度に向けて鹿屋体育大学側と検討が必要である。



令和4年度 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業 ロボット・プログラミング体験教室

- 1 趣 旨 ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会とする。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 企画・運営 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 4 期 日 令和4年10月15日（土）
- 5 対 象 者 プログラミング体験活動に興味のある小学5年生～中学3年生
- 6 募集定員 小学生20人程度 中学生20人程度 合計40人程度
(参加 小学生16人 中学生8人 計24人)
- 7 講 師 Robogals Kagoshima (鹿児島高専)



8 日 程

時間	小学生の部	時間	中学生の部
9:15	受付（本館ロビー）	13:00	受付（本館ロビー）
9:45	開講式	13:30	開講式
10:00	体験1 「つなげてもっとプログラミング」	13:45	体験1 「つなげてもっとプログラミング」
	体験2 「知っているかい？ロボットの裏側」		体験2 「知っているかい？ロボットの裏側」
	体験3 「オリジナルロボットを紹介しあおう！」		体験3 「オリジナルロボットを紹介しあおう！」
11:50	閉講式	15:35	閉講式
12:10	解散	15:55	解散

- 9 事業運営上の配慮 新型コロナウイルス感染対策として、当日の受付での検温及び消毒を依頼した。
また、小学校の部終了後、机や椅子の消毒作業を行った。
- 10 参加者の感想
 - プログラミングを初めて体験しました。説明もわかりやすく、自分のプログラムでロボットが動いたときはとても嬉しかったです。
 - みんなと協力してプログラミングができました。ロボットに対する興味が、より強くなりました。
 - 鹿児島高専に行ったことが無かったけど、高専の人たちに教えてもらったのがとても貴重な体験になりました。
- 11 成果と課題（○成果 ●課題）
 - 参加者同士が交流を深めながら、プログラミングの初歩を体験することができた。
 - レゴを使用したプログラミングは初体験の参加者が多く、「学校ではできない貴重な体験ができた」との感想が多く聞かれた。



令和4年度 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業 登山教室

- 1 趣 旨 コロナ禍で十分な体験活動ができない中、登山を通して、豊かな情操や自ら考える力などの生きる力を培い、青少年の自立を支援する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大隅青少年自然の家
霧島山岳会
- 3 企画運営 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 4 期 日 令和4年11月5日（土）～6日（日）1泊2日
- 5 参加対象 小学5年生～中学生
- 6 募集定員 20人（定員を超えた場合は抽選とする）
- 7 参加者 小学生9名、中学生7名（申し込み36名）
- 8 指 導 者 講話、登山指導 霧島山岳会 南竹成己氏、同会会員・国立大隅青少年自然の家職員
- 9 日 程



11/5（土）	10:00 受付 10:30 開講式、オリエンテーション 11:00 高隈山についてのお話 12:00 昼食 13:00 グループ活動「山に登ってみよう」 15:00 バス移動 16:00 御岳五合目（25番） テント泊準備 17:00 夕食・片付け（日の入り時刻17:30頃） 18:00 星空観望（星座で方位を知る、北極星の確認） 19:30 就寝（ソロテント泊）	
11/6（日）	3:30 起床・朝食 4:30 出発 6:30 御岳山頂（日の出時刻6:40頃） 7:00 御岳出発 8:00 妻岳分岐点 休憩 行動食補食 9:00 妻岳山頂着 9:30 妻岳分岐点 10:30 御岳山頂 昼食 12:00 御岳五合目着 13:00 自然の家本館 シャワー・片付け 14:30 閉講式 15:00 解散	《 荒天時 》 館内でのコンパスなどを使用した登山技術講習など。

10 事業運営上の配慮

新型コロナウイルス感染対策として、当日の受付で全員の検温を依頼した。また山中でのテント泊当日のスケジュールに合わせた実踏ができたため、時間配分や安全管理が確実にできた。

11 参加者の感想

- みんなでテントに泊まって楽しかった。また来年もあってほしい。
- 下山した後の達成感があったので良かった。
- みんなと協力するとなんでもできるし、楽しいとわかった。
- 久しぶりにすごく歩いたり、日の出を見たり、夜ご飯もおいしくてすごく楽しかった。
- いろいろな人と話しながら山に登ったり、下山したりするのは楽しいと思った。



12 成果と課題

- 当日のスケジュールに合わせた実地踏査ができたため、時間配分や安全管理が確実にできた。
- ゴールが明確なため、参加者の達成感につながった。
- 目的や安全を考慮して参加人数・講師・ボランティアの数を事前に精査しておく必要がある。

令和4年度 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業 スポーツクライミング体験教室

- 1 趣 旨 スポーツクライミングを身近に感じるとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神を養成する。また、コロナ禍でも体験の場を提供し、体験の良さを啓発する。



- 2 期 日 第1回：令和4年11月26日（土） 第2回：令和4年12月17日（土）
第3回：令和4年12月24日（土） 第4回：令和5年1月21日（土）
第5回：令和5年1月28日（土）

- 3 参加対象 体験活動に興味のある子ども・家族

- 4 募集定員 各回30人程度

- 5 参加者 第1回：31人（申込人数：83人） 第2回：32人（申込人数：201人）
第3回：31人（申込人数：64人） 第4回：30人（申込人数：145人）
第5回：25人（申込人数：102人） 計149人（申込人数：595人）

6 日 程

	全回共通
9:30	受付
9:50	開講式
10:00	全体説明・準備運動
10:30	登り方説明
11:00	体験
12:00	アンケート記入、閉講式

7 事業運営上の配慮

- 導入の部分でクライミングについての知識や、登り方のコツについて説明することで、ただ昇るだけでは得られない付加価値をつけられるよう計画した。
- 一度に体験できる人数に限りがあるため、グループ分けを行い、スラックライン体験ブースを設置することで、効率的な時間配分とした。

8 参加者の感想

- 達成感を味わえた。
- スラックラインもあり飽きずに参加できた。
- 体を使った体験をどんどん計画してほしいと思った。
- 簡単そうに見えたけど、実際は難しかった。

9 成果と課題

- 多くの参加者にクライミングやスラックラインの良さを感じてもらうことができた。
- 本施設で体験できる活動を知ってもらうきっかけとなった。
- 今回は全回初級レベルの教室であったが、ステップアップ教室の開催についても検討していく。
- 講師の人数を安定的に確保すること。



令和4年度 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業 ファミリー防災キャンプ

- 1 趣 旨 自然体験や生活体験の防災・減災プログラムを親子で体験して、家族の絆を深めるとともに、自助・共助・公助による生きる力を育む。
- 2 主 催 国立大隅青少年自然の家
- 3 企画・運営 鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業実行委員会
- 4 期 日 令和4年11月19日（土）～20日（日）
- 5 対 象 者 防災・減災や自然体験及び生活体験に興味・関心のある家族
- 6 募集定員 10家族 40人程度
(参加者 10家族 34人 申込み31家族)
- 7 講 師 鹿屋体育大学 生涯スポーツ実践センター 坂口 俊哉氏
国土交通省 九州地方整備局 大隅河川国道事務所 職員



8 日 程

【1日目】		【2日目】	
9:15	受付	6:00	起床
10:00	体験1「コミュニケーションを深めよう！」	7:30	体験6「防災ホットサンドを作ろう！」
12:00	体験2「防災に役立つキャンプメシ！」	9:00	体験7「防災について考えよう」 (降雨体験機体験・桜島火口 VR 体験・土石 流発生装置体験)
14:00	体験3「身近なもので緊急避難体験！」	11:30	別れのつどい・解散
16:00	体験4「協力してテントを立てよう！」		
17:00	体験5「避難所生活に備えた野外調理に チャレンジ！」		

- 9 事業運営上の配慮 新型コロナウイルス感染対策として、当日の受付で各家庭に除菌シートを配布するとともに、全員の検温を依頼した。また、各プログラムの終了後、道具や机及び椅子の消毒作業を行ってもらった。

10 参加者の感想

- パエリアを作ることが楽しかったです。家でキャンプするときも作りたいです。テント泊も最高でした！！
- キャンプ初心者私たちでも安心してプログラムを実施することができました。2日間、ありがとうございました。
- 夕食で、女性が火起こし、男性が野菜を切るなど、いつもと役割を変えることで、新たな発見がありました。講師の先生のお話が、自分の生活のことも交えて話してくださり、とても分かりやすく、面白かったです。ありがとうございました。

11 成果と課題

- 地域の資源を活用を図るために、鹿屋体育大学及び国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所から講師を招聘し質の高いプログラムを参加者に提供することができた。
- 家族同士の活動を数多く実施することで、家族同士のコミュニケーションが活発に行われ、交流促進につながった。
- プログラムが多岐にわたり、準備や事前打ち合わせなどに多くの時間を要した。使用する道具等を含め、プログラムの精選・検討が課題である。



令和4年度 「体験活動普及啓発事業」 ファミリーキャンプ⑤

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
また、書道に親しむことで、自己肯定感や想像力を育む機会とする。
- 2 期 日 令和4年10月9日（日）～10日（月・祝）1泊2日
- 3 参加対象 体験活動に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参加者 9家族33人（申し込み：70家族）
- 6 指導者 鹿児島県立鹿屋高校書道部員9人国立大隅青少年自然の家職員3人
- 7 日 程



10月9日（日）	10月10日（月・祝）
12:50 受付	6:30 起床
13:10 出合いのつどい	7:30 テント撤収・退所点検
13:30 野草で和紙作り体験	8:00 朝食「ホットサンドメーカークッキング」
16:00 野外炊飯「秋シチュー」	9:30 書道パフォーマンス体験
19:30 ハンモック体験・家族の時間・テント設営 入浴（19:30～20:30）	12:00 別れのつどい・アンケート記入 解散
22:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 家族ごとでも行動ができるようにしおりに詳細を記入し、事業の初めに読み合わせを行った。
- 少人数の家庭が多かったため、家族間の交流が持てるように、事前に了承をとり2家族で1釜の炊飯を行った。
- 参加者の移動の負担を減らすためになるべくクラフト室Aで完結できるよう、動線を計画した。

9 参加者の感想

- どの活動も楽しく活動できました。書道パフォーマンスもめったにできない活動で楽しかったです。
- 多くの家族と共に活動ができ、いろんな価値観を知れるので、世界が広がるので良いと思います。
- 書道パフォーマンスは初めて生で見ました。高校生も優しく教えてくれて、コツをつかみ楽しい思い出になりました。
- コロナ禍で泊まりがけで遊びに行くことがほとんどなかったので、子どもたちも嬉しそうでした。

10 成果と課題

- 家族のみでは体験できないような、本施設で活動する価値のある活動を実施することができた。
- 野草で和紙作り・書道パフォーマンス体験といった新しい体験活動を企画することができた。
- 申込の際に宿泊室とテント泊、どちらを希望するかを選んでもらい「宿泊室7割：テント泊3割」とファミリーのニーズに合わせた体験ができた。
- 職員やボランティアとの打ち合わせが不十分であった。初めての活動が多い際には担当職員全員での試行を行い、ボランティアにも役割の確認をお願いする必要があると感じた。



課題を抱える青少年を支援する体験活動事業 おおすみくん家に遊びに来ませんか！！（全5回）

- 1 趣 旨 不登校及び不登校傾向にある小・中・高校生が自然体験・生活体験等を通して、
野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。
- 2 日 時 ①令和4年 6月18日（土） 10:00～12:00
②令和4年 9月 3日（土）
③令和4年10月15日（土）
④令和4年11月19日（土）
⑤令和5年 1月21日（土） 全5回
- 3 対 象 者 小・中・高校生（不登校及び不登校傾向の児童生徒）
- 4 募集定員 各回20人程度
- 5 参 加 者 ①小学生 2人 中学生 2人 保護者 6人 計10人
②小学生 1人 中学生 1人 保護者 3人 計 5人
③小学生 8人 中学生 4人 保護者 9人 計21人
④小学生 5人 中学生 5人 保護者 11人 計21人
⑤小学生 2人 中学生 3人 保護者 4人 計 9人
- 6 指 導 者 鹿児島県教育庁高校教育課 学校教育生徒指導班
鹿児島県教育庁高校教育課 スクールカウンセラースーパーバイザー
国立大隅青少年自然の家職員

7 活動内容

回	活動内容（活動場所）
①	ゴムボートでの海釣り・どんぐりクラフト（新城海の家），懇談会
②	焼き板（ロビー），懇談会
③	カヌー（新城海の家），懇談会
④	ピザ作り（本館クラフトA），懇談会
⑤	ウッドバーニング（学習室）・モルック（コミュニティールーム），懇談会

8 事業運営上の配慮

- 自分だけで楽しむ活動や他者との関わりのある活動を設定して、子どもが参加しやすいようにした。
- 時間配分は、子どもの活動の進捗に合わせて柔軟に対応した。

9 参加者の感想

(1) 子ども

- 魚が一匹しか釣れなかったから、また釣りをしたい。
- 人とふれあうのが楽しかった。
- 初めて木に絵をかいたので、どんなになるか楽しかった。
- 家ではできない体験が多いから楽しい。
- 自分で物を作る楽しさを知った。

(2) 保護者

- 学校とは違う表情が見られ、またどんなことに興味を持っているかを知るいい機会でした。
- 子どもが家以外で、楽しく過ごせる場所があればいいと思います。
- 作業する中で、子どもとの会話がしやすくなり、楽しくできた。
- 遊びの中で色々なことを吸収してくれたらうれしいです。

10 成果と課題

- まれにとまどいを見せる児童生徒がいたが、時間が経過するにつれて楽しく活動ができた。
- 懇談会は、保護者の悩みを共有できる貴重な機会となった。
- 県教育庁と連携し、広報範囲や活動内容などを継続的に検討していく。

令和4年度生活・自立支援キャンプ事業 「子ども生き生き体験学習」

- 1 趣 旨 児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験及び生活体験の活動を通して、生活・自立を支援するとともに、児童生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。
- 2 期 日 令和4年7月28日（木）～29日（金） 1泊2日
- 3 対 象 者 社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団 児童養護施設 仁風学園 ※前年度に決定済み
- 4 募集定員 15人程度
- 5 参 加 者 9人（児童6人・引率者3人）
- 6 指 導 者 大隅青少年自然の家職員2人

7 日 程

7月28日（木）		7月29日（金）	
15:00	出会いのつどい オリエンテーリング	6:00	起床
16:00	沢登り・水中観察	7:30	朝食
19:00	野外炊飯（バーベキュー） 花火	9:00	鹿屋市漁港での体験 （餌やり・施設見学・魚解体ショー）
22:00	就寝	13:00	別れの集い

※新型コロナウイルス対策のため、1日目の開始時刻が4時間遅れ・2日目9時以降のプログラムは中止

8 事業運営上の配慮

- 施設担当者との打合せで、子どもの現状や興味関心を聞き取り、それに対応したプログラムを組むことができた。
- 引率者の方と、写真での撮影方法を確認しプライバシーに配慮した。

9 参加者の感想

- 沢は歩きにくかったけど、水が冷たくて気持ち良かった。
- 小さな魚とかにを捕まえることができて楽しかった。
- 風が強くて紙の皿が飛んだけど、たくさん肉を食べることができた。
- 魚の解体ショーを見ることができずに残念だった。

10 成果と課題

- 新型コロナウイルス対策のため鹿屋市漁港での活動はできなかったが、来年度や他の教育事業にもつながる綿密な打合せができた。
- 職員や引率者の数や配置を工夫することで、小学校低学年児童も安全に沢登りができた。
- ボランティアがいなかったが、職場体験の教職員が参加して運営に協力してもらえた。また、子どもとの関係作りにも意欲的に取り組んでもらえた。
- 沢登りの実施方法や実施判断基準など、プログラム化に向けて課題を精査したい。



令和4年度 NEAL リーダー養成研修

- 1 趣 旨 自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者（NEALリーダー）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅰ）を開催し、野外活動に必要な専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。
- 2 期 日 令和4年12月9日（金）～11日（日）2泊3日
- 3 参加対象 青少年教育関係者、学校教育関係者、国公立青少年教育施設関係者、自然体験活動に興味・関心のある方（18歳以上の方）
- 4 募集定員 20人
- 5 参加者 11人（申し込み：13人）
- 6 指導者 NEAL主任講師 江口 智昭氏、えびのエコミュージアムセンター主任 須田 淳氏、鹿児島大学共通教育センター准教授 福満 博隆氏、株式会社大塚製薬工場 永瀬 努氏、鹿屋養護学校教諭 西 育子氏、垂水消防署職員



7 日 程

12月9日(金)		12月10日(土)		12月11日(日)	
13:00	受付(1階ロビー)	7:30	朝食レストラン	7:40	朝食レストラン
13:30	開講式(第1学習室)	9:00	自然体験活動の特質 3時間 フィールドワーク、地形の成り立ち、森の観察、アートシェア		部屋、通路、トイレ清掃
13:45	ガイダンス 0.5時間			9:00	青少年教育における体験活動 1.5時間 体験活動の意義、座学
14:30	対象者理解 1.5時間 座学 自然体験活動の技術 1.5時間	12:30	昼食弁当	10:40	自然体験活動の指導 1.5時間 テント、ロープワーク
16:10	時間(熱中症予防対策講義 15分含む) 地形図解説など	13:30	自然体験活動の技術 4.5時間 登山、登山技術の説明	12:10	昼食弁当
18:00	予定説明	18:15	予定説明	13:00	自然体験活動の安全管理 3時間 救命救急講習 ガイダンス 0.5時間
18:30	夕食レストラン	18:30	夕食レストラン	16:10	修了試験 0.5時間
19:30	入浴	19:30	入浴	16:40	閉講式

8 事業運営上の配慮

感染症対策として換気や消毒を徹底したことと、研修内容について、座学と実技のバランスを意識して企画した。

9 参加者の感想

- 座学とフィールドワークがバランスよくあり、良かった。
- 今回の自然体験活動研修で新たな学びと気づきがたくさんありました。あとは、ほかの人たちに伝えていくことが大事だと思っています。自分でもしっかりと学び、多くのことを発信できたらと思います。
- 今回の2泊3日の生活を通じて、“資格を取る”だけでなく、人と人とのつながりの大切さや体験活動の本質等、自分が想像していた以上の学びを得ることができた。また、関わった人の“人の温かさ”を強く感じ、自分も家に帰ってから“与えることができる人”になれるよう、意識したいと思います。

10 成果

- 講師や参加者同士の交流、つながりを予想以上に持ってもらえたこと。



令和4年度 九州・沖縄地区国立青少年教育施設 企画指導専門職研修会

- 1 趣 旨 国や地域のニーズ、機構の役割を踏まえて、業務を進める上での課題解決に向けた手法等の知識や技能を高め、意識を醸成するとともに、施設職員が相互に情報交換や協議を通して施設間のネットワークの強化を図る。
- 2 期 日 令和5年1月17日（火）～18日（水）
- 3 参加対象 国立青少年教育施設の企画指導専門職、企画指導専門職付職員、施設所長が推薦する者
- 4 募集定員 20人程度（最少催行人員8人）
- 5 参加者 4施設20人
- 6 指導者 講義① 国立大学法人鹿屋体育大学 特任専門員 西 みやび氏
講義② 国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 研究員 大山 宏氏
講義③ 鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター 所長 川畑 清郎氏
- 7 日 程



1月17日（火）		1月18日（水）	
13:30	受付	7:00	起床
13:50	開会行事	7:30	朝食
14:10	講義①（80分） 効果的な広報活動について	8:45	演習①（15分） 宿泊棟部屋点検（退所点検）
15:30	休憩・準備	9:05	演習②（80分） 調整プログラム作成の工夫
15:45	講義②（90分） 事業の評価について	10:25	休憩・準備
17:15	集合写真撮影	10:40	講義③（60分） 教育事業の企画立案の考え方
17:20	施設参観、荷物移動、入浴	11:40	休憩・準備
18:10	夕食	11:50	閉会行事
20:00	自由交歓	12:00	解散
22:00	就寝		

- 8 事業運営上の配慮
 - 各施設から研修内容の要望を募ることで、ニーズにあった講義・演習を企画した。
 - 演習時にグループ討議を入れて、職員相互が自由に情報交換できる時間を設定した。
 - 新型コロナウイルス感染症防止対策として、学習室内の換気、マスク着用、手指消毒等の徹底を依頼した。
- 9 参加者の感想
 - 西先生の研修は、なかなか出会うことのない方だったので貴重な体験となりました。
 - 初めて参加して、広報・評価・調プロ等、いろいろ勉強させていただき、今後に生かせる内容でした。もっともっと学びたいと思いました。
 - 他施設の人たちと交流でき、情報交換等大変よかった。もっとたくさんの参加者がほしいです。
- 10 成果と課題
 - 専門の外部講師を招聘することで、参加者のスキルアップを図ることができた。
 - 機構本部の青少年教育研修センター研究員とのパイプができたことで、今後の教育事業等についてアドバイスを得られるようになった。
 - 夕食時の懇親会で、親睦が深まり、各施設間のネットワークを作ることができた。
 - 企画指導専門職のみが対象だったので、参加者が少なかった。各施設の事業推進係員も参加対象者とするなど、研修の機会を増やしたい。
 - 各施設からの移動時間がかかるので、1泊2日では日程が窮屈になってしまった。活動の精選や、2泊3日の研修会として実施するなどの検討が必要である。

令和4年度教育事業 ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和4年6月4日（土）～5日（日）1泊2日
- 3 対 象 者 高校生・大学生（短大・専門学校生を含む）・一般
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参 加 者 40人（高校生30人、大学生9人、社会人1人）申込者41人
- 6 指 導 者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 福満 博隆 氏
垂水消防署員、国立大隅青少年自然の家職員、法人ボランティア2人

7 日 程

6月4日（土）	6月5日（日）
9:00 受付	6:00 起床・寝具整理・清掃
9:50 講義1「青少年教育における体験活動」	7:30 朝食
11:30 講義2「青少年教育施設の現状と運営」	9:00 実習2「自然体験活動の安全管理」（普通救命講習Ⅰ）
12:30 昼食	12:10 昼食
13:30 講義3「ボランティア活動の意義」	13:10 講義5「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:10 講義4「熱中症予防対策」	15:10 閉講式・解散
16:00 実習1「自然体験活動の技術」（野外調理）	
20:00 入浴・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 参加者に対して事前に感染症対策等の協力について呼びかけを行った。
- 講義5では、質疑応答の時間を多く設けて、参加者が自発的・積極的に発言できるよう配慮した。

9 参加者の感想

- 高校生から社会人まで普段関わることの少ない年代の方々と関わることができ、うれしかった。
- みんな明るくてできないことがあっても前向きになれた。
- いい思い出ができました。友だち0からだったが、たくさんできてうれしかった。
- 女子のお風呂について、長時間とってほしいと思った。

10 成果と課題

- コロナ禍ではあったが、キャンセル者や体調不良者を出ることなく滞りなく事業を実施できた。
- 事業終了後、2週間でボランティアの登録者として、27名程登録があった。
- 高校生は1コマ90分の講義には慣れておらず、休憩時間や講義内容含めて、工夫して必要がある。
- レクリエーションや野外炊飯等の感染症対策を改めて検討し、今後の事業に活かしていく必要がある。



令和4年度 九州地区青少年教育施設ボランティア交流会

- 1 趣 旨 青少年研修施設でボランティア活動をしている者が集い、活動の実践発表や交流を通して、活動への意欲を高める。

また、実際にボランティア同士で体験活動を行うことで、ボランティア活動の資質向上を図る。

- 2 期 日 令和4年12月17日（土）～18日（日）1泊2日

- 3 参加対象 高校生以上のボランティア

- 4 募集定員 30人

- 5 参加者 10人（申込み：10人）



6 日 程

	12月17日（土）		12月18日（日）
13:30	受付	6:30	起床
13:45	開会・アイスブレイク	7:30	ホットサンドメーカーを使った簡単調理！
13:55	交流①～テーマを決めて野炊に挑戦！～ ・テーマ、メニュー決め ・食材買い出し ・調理	9:10	交流②～各施設のボランティア活動の紹介～
20:00	入浴	11:30	閉会式
21:00	意見交換会・交流会	11:45	ニュースポーツ体験（希望者のみ）
22:30	シュラフ泊体験	12:30	解散

7 事業運営上の配慮

今回は約3年ぶりの対面での開催ということもあり、初日はお互いの距離を縮める交流をメインとしたプログラムとした。2日目は各施設の事例紹介とし、交友関係を広げつつ、今後の活動意欲につながるような事業とした。また、定期的な消毒や検温等基本的なコロナウイルス感染症対策を徹底して運営を行った。

8 参加者の感想

- 初日に仲良くなれて、2日目に取り組み等の報告があつてとてもよかった。
- たくさんの人と交流して、いろんなことを知れて楽しかったし、良い一日になりました
- 仲良くなれたらなというぐらいの気持ちで参加したが、すごく楽しくて学びにもなって、もっと他施設のボランティアとつながりたいと思った
- とても楽しく、1泊2日じゃ物足りない

9 成果と課題

- 施設を超えた参加者同士のつながりができた。
- 他施設の事例紹介が刺激となり、よりボランティア活動に前向きに取り組むきっかけとなった。
- 初日の活動をつめこみすぎていた。もう少しゆとりのある日程にする必要がある。
- 国立以外の施設からも参加しやすいよう予算等の見直しが必要。



鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業 「体験の風をおこそう」フェスティバル秋 in アミュ広場

1 趣 旨 一般の方々に、県内の青少年教育施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。

2 期 日 令和4年10月23日（日）

3 参加対象 体験活動に興味のある家族・一般の方々

4 来場者数 2,801人

5 体験者数 1,416人

6 協力団体 アジア・太平洋農村研修センター、上野原縄文の森、青少年研修センター、奄美少年自然の家、霧島自然ふれあいセンター、鹿児島市立少年自然の家、出水市青年の家、薩摩川内市立少年自然の家

7 場 所 鹿児島中央駅前アミュ広場

8 日 程

時間	内容
8:30	各ブース搬入開始
9:00	全体朝礼
10:00	イベント開始
15:00	イベント終了
15:30	全体終礼・解散
16:00	会場撤去



9 事業運営上の配慮

- 事前にマスコミ各社（テレビ局・新聞社）を訪問して、広報活動を行った。
- 「早寝早起き朝ごはん」運動キャラクターの着ぐるみを活用して推進啓発に努めた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、JR九州エージェンシーと連携して、各ブースの広さや机・椅子の数と配置を配慮した。また、ブース毎に消毒用スプレーを配布し、消毒を協力団体に呼び掛けた。

10 参加ブースの感想

- お客様より、「こういった体験をするところがないので良かったです」というお声を頂きました。
- たくさんの市民の皆様に参加頂き大変よかった。予想以上に人が来ていて材料が足りなくなった。うれしい悲鳴でした。
- 他と比べて人々の往来が格段に多いため、施設をより多くの方々に知って頂くのに非常に利点がある。

11 成果

- 集客力のある場所での開催は非常に効果的だった。今年度の内容を精査し、来年度も実施したい。
- 早寝早起きの着ぐるみやじゃんけんマンは、特に子どもの集客には効果があった。
- 今年度の各ブース体験者数を今後の目安とし、体験者数の向上を目指したい。



令和4年度「体験の風をおこそう」フェスティバル・冬

- 1 趣 旨 子ども・親・一般の方々が、当施設の自然体験や活動プログラムの体験を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和4年12月4日（日）
- 3 参加対象 自然体験に興味のある家族
- 4 協賛企業 有限会社森伊蔵酒造、鹿屋市漁業協同組合、株式会社桜島、株式会社レモンガスかごしま鹿屋支店、大海酒造株式会社、垂水市漁業協同組合、有限会社泰夫水産
- 5 参 加 者 636人（うち、体験者 424人）
- 6 指導・協力団体 出水市青年の家、鹿児島県上野原縄文の森、鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター、鹿児島県立青少年研修センター、鹿児島県立南薩少年自然の家、鹿屋市市民生活部市民スポーツ課国体推進室、垂水市教育委員会国体推進室、鹿児島県立鹿屋工業高等学校、鹿児島県立串良商業高等学校、鹿児島県立鹿屋農業高等学校、アウトドアショップ・キャメル、WADAT Aダンススタジオ、コンパスグループジャパン、ねじめ茶寮、谷じい牧場、株式会社ナンチク、国立大隅青少年自然の家、法人ボランティア

7 日 程

時間	内容	詳細など
9:30	受付・開会	国公立施設クラフトブース、高等学校による販売、吹奏楽演奏、e-スポーツ体験、木材加工体験ブース、国体競技体験、ダンスステージ、SDGs展示ブースなど
10:00	ブース開始	
14:15	抽選会	
15:00	閉会	

8 事業運営上の配慮

- 当日受付かつ保険加入に個人情報が必要なため、事前に記入して持参できるよう、チラシに記入欄を作成した。
- 必要な情報が必要な職員に届きやすいよう、無線を持つ職員を減らし、トラブル対応のフローをシンプルにした。
- 懸案事項があると、所長・次長ヒアを丁寧かつ迅速に行った。

9 参加者の感想

- クライミング体験できる場所探してました！
- 自由参加でよかったです。
- このような施設があることを初めて知った。ぜひ利用してみたいです。
- 親子で体験ができて楽しかった。来年もまた参加したいです！

10 成果と課題

- 一昨年度までの協賛企業へ開催の案内をしたところ、快く協賛品のご提供にご協力いただき、42組の抽選を行うことができた。
- 多くの体験・食事ブースに協力いただき、フェスティバルを楽しんでもらうことができた。
- 駐車場が1つの場所にまとまっておらず、管理が難しい。グラウンド等、別の場所を借りる検討も必要。
- 引き継ぎ資料も少ないため、所の行事として取り組むことが難しく感じた。効率よくよりよいものにしていくためにも、担当ごとに細かく引き継ぎ資料を作成すること、職員全体で取り組む手立てを工夫する必要がある。



令和4年度における傷病発生状況

1. はじめに

令和4年度に、当施設では延べ31,061人の利用者が活動を行った。利用者の健康と安全には所全体で取り組んでいるが、例年数件の傷病が発生している。令和4年度の傷病発生状況について、傷病記録表・病院受診報告書を基に、前年度と比較結果を報告する。

2. 傷病発生総数

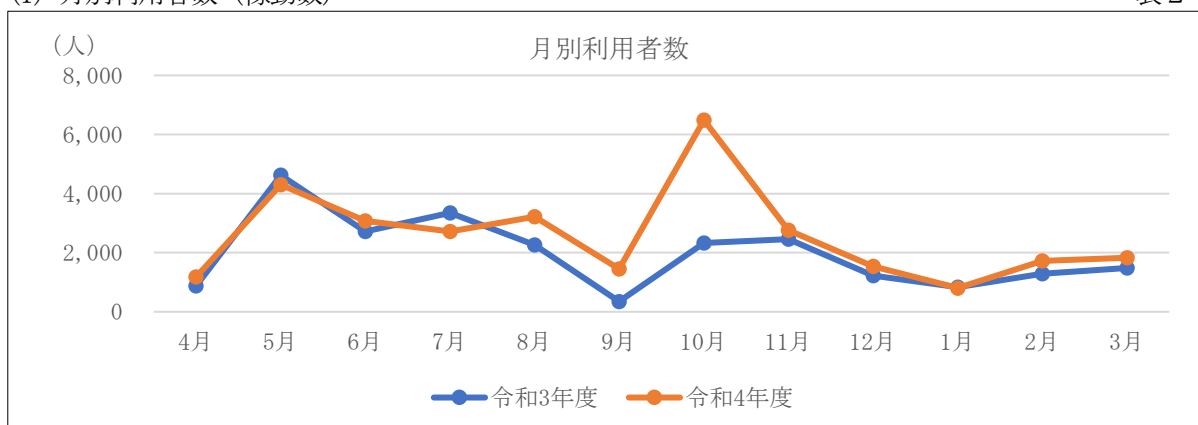
表1

	総数	内科系傷病 (%)	外科系傷病 (%)	利用者数に対する発生率 (%)	利用者数 (稼働数)
令和4年度	46	27 (28.7)	19 (41.3)	0.1481	31,061
令和3年度	47	23 (48.9)	24 (51.1)	0.1979	23,755
令和2年度	35	24 (68.6)	11 (31.4)	0.1845	18,968

3. 月別研修者数及び傷病発生状況

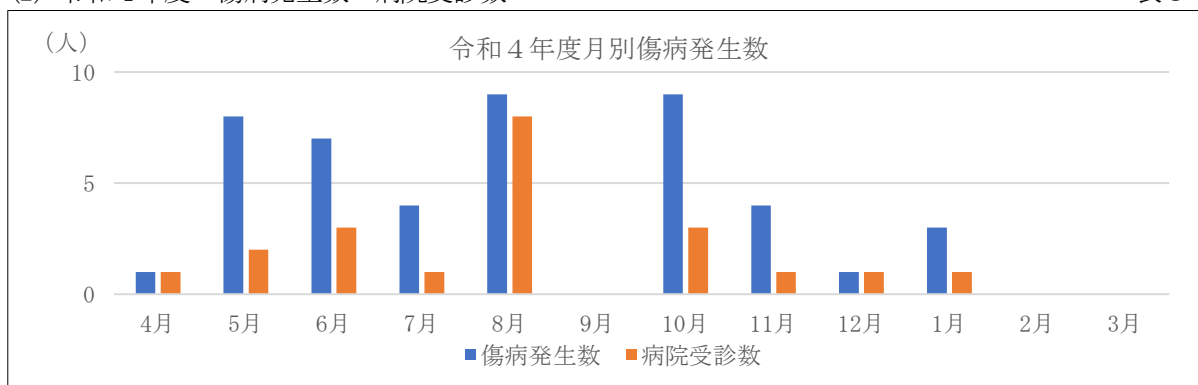
(1) 月別利用者数 (稼働数)

表2



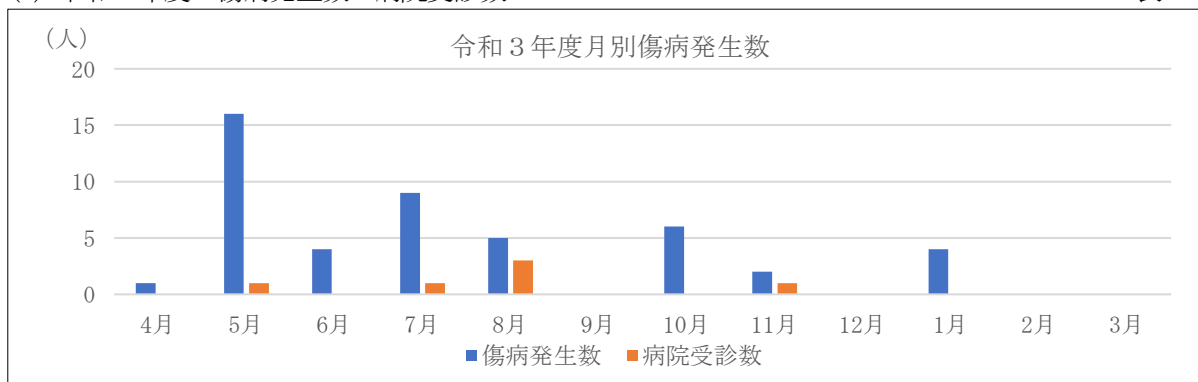
(2) 令和4年度 傷病発生数・病院受診数

表3



(3) 令和3年度 傷病発生数・病院受診数

表4



令和3年度の傷病発生数は、5月が多い結果となっていたが、令和4年度の傷病発生数は、月別研修者数に比例しており、利用者に対する発生率は減少傾向であった。病院受診者は、前年度が6人であったものが、本年度は21人と大幅に増加していた。

4. 傷病発生順位

表5-1

内科系	令和4年度	令和3年度
1位	発熱	発熱
2位	腹痛	頭痛・腹痛・倦怠感
3位	嘔吐	嘔吐

表5-2

外科系	令和4年度	令和3年度
1位	打撲	切傷・捻挫
2位	擦り傷	打撲
3位	切傷・捻挫・虫刺され	突き指

下表は内科系と外科系それぞれの傷病発生の割合を表したものである。

表6-1

内科系傷病者数 (%)		
	令和4年度	令和3年度
発熱	14 (51.9)	5 (21.7)
腹痛	4 (14.8)	3 (13.0)
嘔吐	3 (11.1)	2 (8.7)
咳・喉の痛み	2 (7.4)	0 (0.0)
頭痛	1 (3.7)	3 (13.0)
吐き気	1 (3.7)	1 (4.4)
脱水	1 (3.7)	0 (0.0)
倦怠感	0 (0.0)	3 (13.0)
生理痛	0 (0.0)	1 (4.4)
けいれん	0 (0.0)	1 (4.4)
発疹	0 (0.0)	1 (4.4)
その他	1 (3.7)	3 (13.0)
合計	27	23

表6-2

外科系傷病者数 (%)		
	令和4年度	令和3年度
打撲	5 (26.3)	4 (16.7)
すり傷	3 (15.8)	1 (4.2)
切傷	2 (10.5)	6 (25.0)
捻挫	2 (10.5)	6 (25.0)
虫刺され	2 (10.5)	2 (8.3)
突き指	1 (5.3)	3 (12.5)
刺傷	1 (5.3)	0 (0.0)
鼻血	1 (5.3)	0 (0.0)
歯の破折	1 (5.3)	0 (0.0)
目の怪我	1 (5.3)	0 (0.0)
骨折	0 (0.0)	1 (4.2)
その他	0 (0.0)	1 (4.2)
合計	19	24

5. 結果・考察

新型コロナウイルス感染症が拡大して以来、利用及び活動に制限が続いていたが、少しずつ以前の生活に近づける工夫がなされ、減少していた利用者数も増加傾向である。その中でも、表1 傷病発生総数は、前年とほぼ同じ人数であった。

表5・6で内容を確認すると、外科系疾患の減少が見られ、内容も軽傷が多く安全点検や活動前の事前の周知により、不注意・不適切な行動による受傷が減少したと考えられ、今後も継続していきたい。

内科系疾患については内容に大きな変化は見られないが、新型コロナウイルス感染症の拡大以降、症状が軽くとも職員や指導者へ相談し、病院受診する傾向にあるため、病院受診者数の増加が見られたと考えられる。今後も新型コロナウイルス感染症に限定することなく、衛生管理、安全対策、施設の環境整備に努め、少しでも病気や怪我の発生及び重症化を防止していきたい。

6. まとめ

新型コロナウイルス感染症が確認され、感染対策や生活様式が様変わりしてきた。正しい情報を適宜収集するとともに、その中で安全に活動していくための配慮や工夫を今後とも続けていく必要がある。

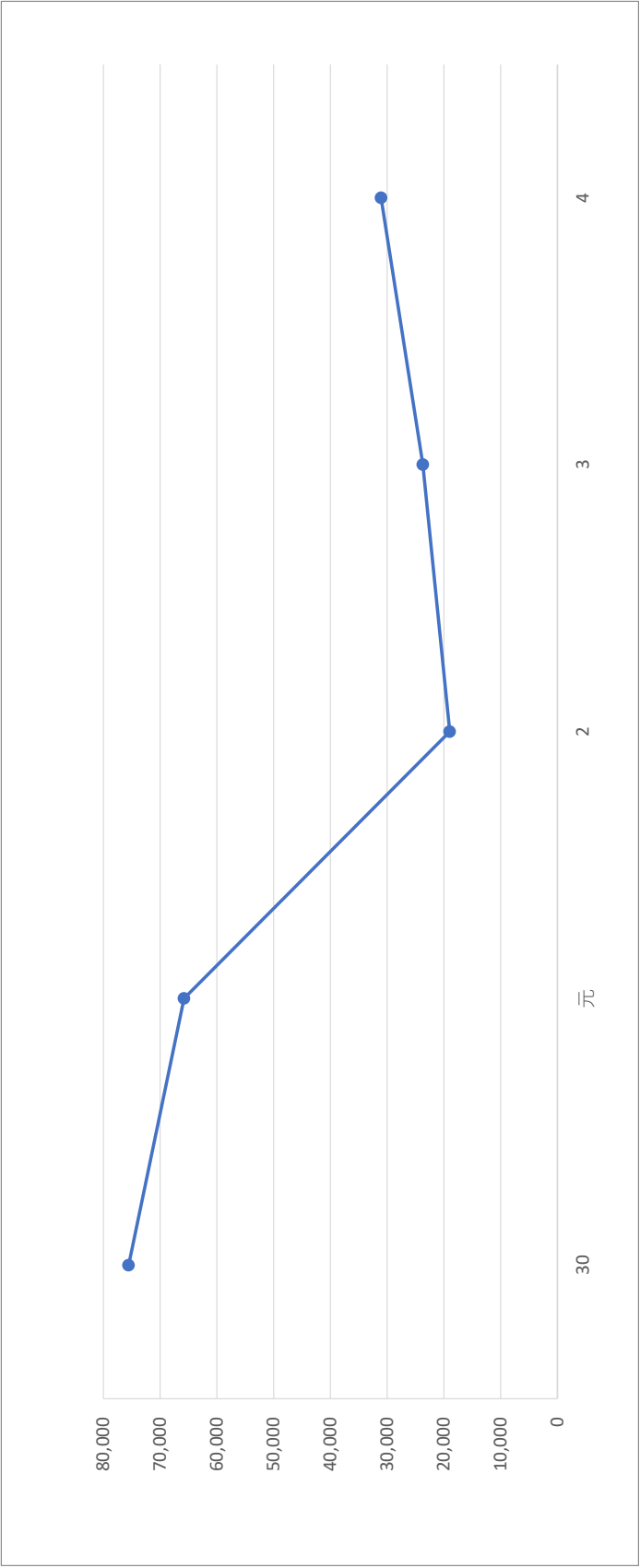
また、本施設周辺は、広大な自然に囲まれ、自然の美しさ、雄大さ、神秘さを感じることができる。一方で、自然の厳しさ、危険性も考え、利用者が無理なく安全に活動を展開できるよう、施設の管理・整備を充実していかなければならない。また、利用者の危険予知能力を高めるためにも、活動開始前の安全指導をさらに充実していく必要がある。

国立大隅青少年自然の家利用者数の推移

(1) 利用者数の推移

【平成30年度～】

年度		30	元	2	3	4
宿泊	団体数	593	492	171	239	257
	実利用者数	17,922	15,364	4,378	6,431	7,760
	延宿泊者数	32,548	26,382	6,543	9,058	11,112
	稼働数	50,376	41,387	10,892	15,456	18,844
日帰	団体数	568	418	370	429	437
	稼働数	24,348	23,995	8,032	8,262	12,140
延団体数		1,161	910	541	668	694
稼働数		75,551	65,812	18,968	23,718	31,061

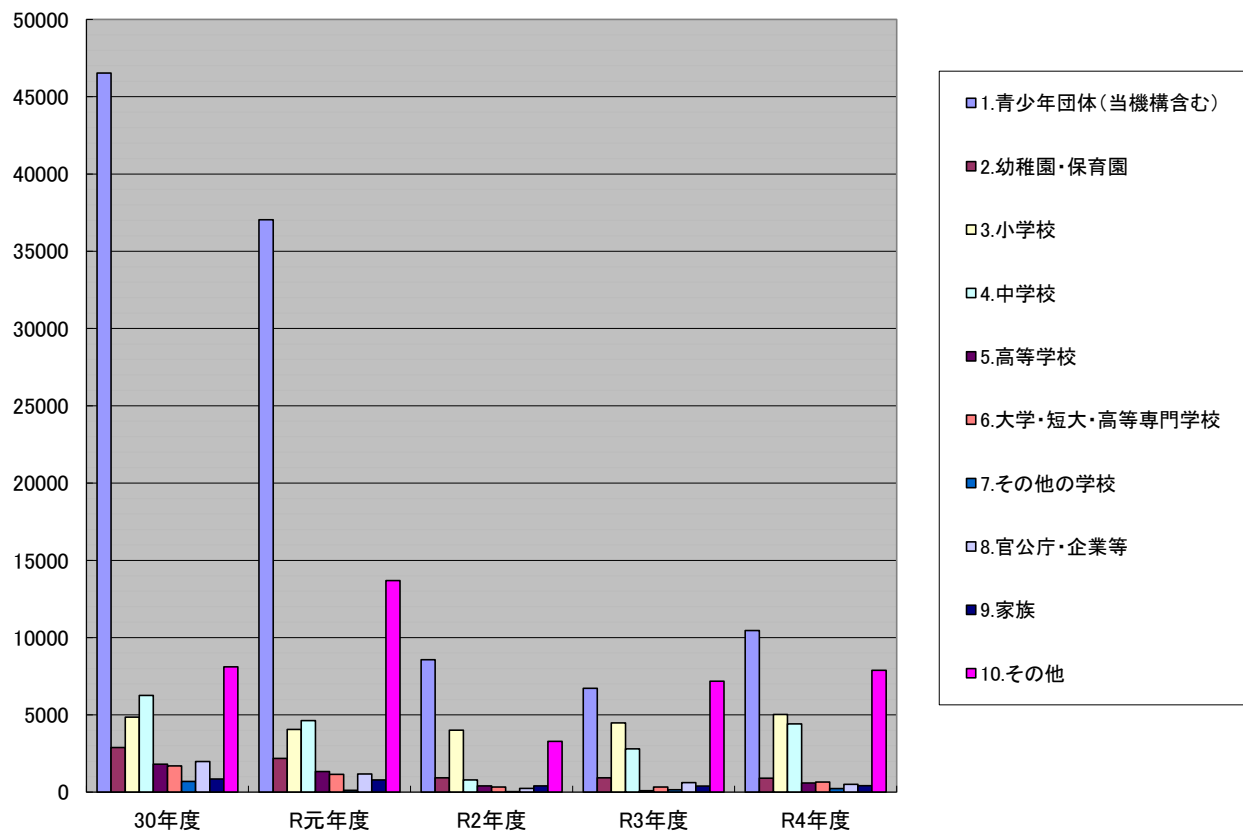


(2) 団体別利用者数の推移

【平成30年度～】(稼働数算出)

団体種	年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
	利用形態	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数	稼働数
1.青少年団体 (当機構含む)	宿泊	28,422	19,889	5,023	5,504	5,834
	日帰り	18,112	17,155	3,542	1,228	4,627
2.幼稚園・保育園	宿泊	1,034	956	102	0	0
	日帰り	1,858	1,226	827	921	897
3.小学校	宿泊	4,390	3,814	3,097	3,783	4,541
	日帰り	462	243	916	698	489
4.中学校	宿泊	6,210	4,522	540	2,576	3,681
	日帰り	53	110	249	233	740
5.高等学校	宿泊	1,788	1,321	395	58	393
	日帰り	17	13	9	30	192
6.大学・短大・ 高等専門学校	宿泊	1,552	956	150	158	370
	日帰り	147	200	182	177	285
7.その他の学校	宿泊	552	114	0	0	222
	日帰り	136	6	32	158	5
8.官公庁・企業等	宿泊	636	934	61	192	231
	日帰り	1,347	237	178	430	279
9.家族	宿泊	498	483	206	243	186
	日帰り	352	306	199	154	229
10.その他	宿泊	5,418	8,757	1,347	2,942	3,414
	日帰り	2,691	4,929	1,942	4,233	4,474
合計	宿泊	50,376	41,746	10,921	15,456	18,872
	日帰り	25,175	24,425	8,076	8,262	12,217
総計		75,551	65,812	18,968	23,718	31,061

団体別稼働数合計



令和5年度 国立大隅青少年自然の家運営方針

I 基本的な運営方針

令和5年度は、中期目標期間の3年目にあたり、文部科学省の中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月21日中央教育審議会答申）等を踏まえ、青少年教育のナショナルセンターとして、体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝える運動を推進する。

そのために、青少年教育指導者・関係者及び青少年を対象とした事業の実施、研修利用に対する指導・助言等の研修支援、青少年教育関係機関・団体等との連携促進、青少年教育に関する調査研究、青少年教育団体が行う活動に対する助成を実施するとともに、地域の実情に応じ、安全安心な体験活動や集团的宿泊活動等を提供し、青少年教育の振興及び健全な青少年の育成を図る。

II 事業運営に関する重点事項

1 青少年教育の振興及び健全な青少年の育成

施設周辺の自然環境や特色を活かし、自然体験活動や集団宿泊活動をはじめ、多様な体験活動の場と機会を提供し、ナショナルセンターとして、次代を担う青少年の自立に向けた事業を総合的に推進する。

2 教育事業および研修支援の重点事項

教育事業や研修支援を通じて「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動させて取り組む。また、教育事業と研修支援が連動したプログラムの開発・拡充を目指し、教育事業で実施したことを研修支援の活動プログラムに落とし込む。その際、SDGsやESDの考え方を取り入れ、特色あるプログラムや国土強靱化に資する防災・減災教育プログラムを開発・拡充する。

3 安全安心な教育環境の確保

すべての業務に対して安全への意識を常に持ち、利用者や職員にとって安全安心な教育環境を提供する。

4 年度計画の目標達成と事業数の精選・事業費の効率化

第4期中期目標・中期計画で掲げられている年度計画の目標を達成することを目指す。事業目的を鑑み、受益者負担の対象範囲を拡大できる事業は、講師への指導料・旅費やボランティア経費、消耗品費などを新たに事業参加費に計上するなど、事業予算の効率化を図る。

5 新たな視点による事業展開

新しいネットワークを広げ、クラウドファンディングや外部資金等を活用するなど、運営費交付金のみに頼らず事業を実施していくスキームを検討する。

III 教育事業の質の充実と普及

1 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

(1) 青少年教育に関するモデル事業の推進

関係機関・団体や公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携した上で、報告書を通して広く青少年教育関係者へ発信する事業を実施する。

① 実践研究事業

長期自然体験活動を通して、豊かな人間性や生きる力を育むとともに、異年齢との交流を図りながら、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援することを目的に「文部科学省委託事業『海からのメッセージ』」を実施する。

実施にあたっては、国立大学法人鹿屋体育大学海洋スポーツセンターと連携を図り、支援・協力をもらう。実施後は、鹿児島県内の青少年教育関係者の研修会等において、事業報告を行い情報発信する。

実施方法の留意点については、次のとおりとする。

ア 事業のねらいに対応した実践研究を大学の研究者等と協働で行い、評価を得る。

イ 青少年のための専門性の高いモデル的体験活動を取り入れる。

ウ 体験活動の効果測定等を行い、その重要性の普及に努める。

エ 成果等については、第4期中期目標期間内に報告書を作成する。（令和6年度第2回目作成予定）

② 地域の実情を踏まえた体験活動事業（特色化事業）

錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんな物でどこから流れ着いたかを考えることを通して、海・自然・人とのつながりに気付かせるとともに、漂流物を使ったクラフト活動を行い、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせることを目的にした「ファミリーキャンプ（漂流物）」を実施する。

なお、環境教育（海洋）の教育テーマに基づいた特色化事業を、4つの国立青少年教育施設（若狭湾青少年自然の家、江田島青少年交流の家、沖縄青少年交流の家）で連携して推進を図る。

③ 全国高校生体験活動顕彰制度に関連する事業

高校生を対象に、体験活動を通して地域が抱えている課題を自ら見出し、その解決に向けた探求活動を通して、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することを目的に「『地域探究プログラム』オリエンテーション合宿」を実施する。

(2) 社会の要請に応える体験活動等事業

親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を自然体験活動指導者や絵本専門士等と協働して実施する。

① 青少年を対象に自己成長や自己実現等を図る教育事業

小学3・4年生を対象に、共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わり協力することで、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自立心や自尊感情を育てることを目的にした「キッズたんけんたい」を実施する。

② 自然環境を活用した事業

ア 海（錦江湾）・山（高隈山）・里の自然環境を活用して、海浜活動、登山・ハイキング、自転車のスポーツ活動を通して、自然を大切にする心を養い、青少年の健全育成のための体験活動及び環境教育につなげることを目的にした「SEA TO SUMMIT for children」を実施する。

イ 1000m級の7つの山が連なる高隈山系を活用して、小中学生を対象に「登山教室」や親子を対象に「親子日帰りハイキング教室」を5回実施する。

③ 地域ぐるみ事業（地域の教育力を高める事業）

鹿児島県内の青少年教育施設、県市町村教育委員会、学校、高等教育機関、青少年団体、企業、NPO法人等と連携して「鹿児島県『体験の風をおこそう』運動推進事業」を展開して、協力団体の拡充に努める。

ア 体験することの楽しさや重要性について普及・啓発を図り、体験活動の推進に向けて、県内の青少年教育施設、地域、近隣の高等学校、関係機関等と連携して、施設の広報を兼ねた「フェスティバル

秋 in AMU広場」と「ふれあいデー『フェスティバル冬 in おおすみくん家』」を実施する。

イ 国立大学法人鹿屋体育大学との連携協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援することを目的に、「おおすみくん家スポーツキャンプ」をバレーボール・野球・バスケットボールの3種目実施する。

さらに、施設のクライミングウォールを活用して「スポーツクライミング教室」を5回実施する。

ウ 国立鹿児島工業高等専門学校と連携して、自分の進路や将来を見据えた「ロボット・プログラミング教室」を実施する。

④ 読書活動に関する専門的指導者の活用事業

鹿屋市と垂水市の小学4年生から6年生を対象に、集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら、普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、生きる力を育てることを目的にして「おおすみくん家通学合宿」を実施する。その中で、絵本専門士を活用して、読み聞かせなどの読書活動を通して豊かな情操を養う。

(3) 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

青少年を取り巻く今日的課題に対応するため、企画段階から専門機関等と連携・協力し実施する。その際、基本的な生活習慣の確立や人間関係形成力など焦点を定め、参加対象者の状況を踏まえ実施する。

① 児童養護施設に入所する児童を支援する事業

児童養護施設及び母子生活支援施設で生活する子どもたちを対象に、自然体験活動及び生活体験活動を通して基本的な生活習慣の確立等の課題に対応するため、生活・自立支援事業「子ども生き生き体験学習」を実施する。

② 不登校、引きこもり、ネット依存等の発達障害や身体障害など課題を抱える青少年の支援事業

鹿児島県教育庁高校教育課学校教育生徒指導班と連携して、不登校及び不登校傾向にある小中学生を対象に、自然体験活動の楽しさや人とのふれあいの大切さを知ることを目的に、「おおすみくん家に遊びに来ませんか!!」を5回実施する。

2 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、質の高い指導者を養成することが必要不可欠であることから事業を実施する。

(1) ボランティア養成・研修事業の実施

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担う法人ボランティアを育成し、青少年教育におけるボランティア活動の一層の推進を図るとともに、ボランティア養成共通カリキュラムに準拠した「ボランティア養成研修」を実施する。

さらに、養成研修後は法人ボランティアとして、上記「1 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業」に関わりスキルアップに努める。

(2) 自然体験活動指導者養成事業（NEAL 養成事業）の参加

令和5年度は九州沖縄ブロックの輪番制の関係で開催されないが、青少年教育指導者等の資質・能力の一層の向上を図るため、指導者育成の観点から九州地区内の国立青少年施設で開催される自然体験活動指導者（リーダー）養成事業及び自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業に、可能な限り、参加する。

IV 研修支援の充実との利用拡大

1 研修利用の充実

宿泊室稼働率50%及び青少年人口（0～29歳）の1割程度の利用実績を確保するために、「稼働率向上（利用者増加）のための数値目標の設定及び行動計画」を策定し、着実な実施に努めるとともに、利用状況の分析や利用団体に対するアンケート調査を行い、利用促進に向けた方策を検討・実施する。

＊ 令和5年度目標 （令和4年度実績の約4割増見込み）

期 間		年 間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
利用者数 (人)	合 計	44,800	11,900	10,400	15,100	7,400
	日 帰 り	17,200	3,800	3,300	8,000	2,100
	宿 泊	27,600	8,100	7,100	7,100	5,300
宿泊室稼働率 (%)		50.6	48.2	51.8	51.8	46.7

2 活動プログラム等における教育的な指導及び支援の充実と検証

利用団体の特性や目的を把握した上で多様なプログラム提案を行うとともに、適切な指導・助言を行う。

また、引率者を対象としたアンケート（施設利用に関するアンケート調査）によって、教育的指導及び支援の充実に努める。

さらに、活動プログラム等の方法・効果が明確になるよう教材や指導資料等の工夫・見直しを行うとともに、事前打合わせ等でのICT機器の活用に努める。

3 学校との連携・協働による体験活動プログラムの充実

学習指導要領に基づき、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携を強化し、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる活動プログラムを各年齢期に応じて提供する。

- (1) 幼児期：自然を活用した幼児期の運動プログラムを活用した場づくり
- (2) 小・中学校：集団宿泊行事等における教科等と関連付けた体験活動プログラムの提供
- (3) 高等学校：「地域探究プログラム」のオリエンテーション合宿の実施

4 利用状況の検証と広報の充実

四半期ごとに利用者数及び施設利用に関するアンケート調査結果に対する増減の要因を検証する。

また、学校、青少年団体、地元関係者等に対する広報は効率的かつ効果的な計画を作成し、確実に実行するとともに、年度末に研修支援等の体制に関する検証を行う。

- (1) 施設業務運営委員会などで幼稚園・子ども園・保育園、小・中学校、高等学校、大学、スポーツ少年団等の年間広報計画（直接訪問計画を含む）を立て、全職員で広報活動に取り組む。
- (2) ホームページの計画的更新に努めるとともに、SNS（フェイスブックやLINE等）の媒体を有効活用して、積極的に事業等の情報を発信する。
- (3) 鹿児島県教育庁社会教育課及び鹿児島県政記者クラブ（青潮会）等との連携を図り、プレスリリースを行うとともに、地元新聞社、テレビ局、ラジオ局のマスメディアを積極的に活用し、広報の充実に図る。
- (4) ファミリー会員制度登録者を対象にして、優先的に事業案内を行い、会員相互の交流及び当施設の利用促進を図る。
- (5) 道の駅、フェリー乗り場等の様々な集客施設や新規の広報箇所（雑誌、地方公共団体等）に協力依頼を行うなど、広報紙配布及び情報提供など効率的な広報に努める。

V 安全安心な教育環境の確保

1 施設における安全管理研修の計画・実施及び安全対策マニュアルの整備

施設における安全研修の年間計画を策定し、全ての事業系職員が安全対策を図った上で指導ができるように研修を行う。

また、「危機管理関係マニュアル点検方針」及び安全点検マニュアル等の点検、見直しを常時行う。

特に、海浜活動をはじめ野外活動時に不測の事態が発生した時は、全職員が迅速かつ適切に対応ができるよう「安全対策マニュアル」に基づいて行動する。

2 安全安心な教育環境づくり

新型コロナウイルス感染症等への対策の徹底を図るとともに、教材教具・活動備品、活動場所等の日常的な点検・整備を通じて、安全安心な教育環境を確保する。

また、鹿児島県教育庁大隅教育事務所及び鹿児島海上保安部・喜入海上保安署等関係機関と連携し、海浜活動に関する安全対策について協議することを目的として、「海浜活動安全対策協議会」を開催する。

3 緊急連絡網の整備

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、全職員及び本部・関係部署並びに業者等への緊急連絡網を整備するとともに、随時見直し更新を図る。

4 安全管理・衛生管理の徹底

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、日頃から危機的状況を想定し、適切な対応ができるよう体系を構築する。

- (1) 宿泊室やトイレ等の生活環境エリアの不良箇所等の早期発見及び早期修繕を行う。
- (2) 安全管理・衛生管理に関する情報を全職員へ周知徹底する。
- (3) 地形、気象、動植物等の危険要因に関する情報を利用者へ提供するとともに、野外・海浜活動記録簿を活用し、安全対策の指導・助言を徹底する。
- (4) 活動用具や火気等の取扱いの指導を徹底する。
- (5) 新型コロナウイルス等の感染症及び食中毒の予防の徹底を図るとともに、発生時の迅速な対応を行う。
- (6) 喫煙者の空間分煙を徹底する。
- (7) 定期健康診断及びその他各種検診等を行い、職員の健康増進に努めるとともに、身体及び心の健康に関する相談等の充実を図るなど、職員の健康管理を充実する。
- (8) 人権擁護、セクハラ防止等を徹底するとともに、相談制度を充実する。
- (9) 盗難・盗撮・事故防止のためのセキュリティ対策を再確認するとともに整備する。
- (10) 情報セキュリティの整備を図る。

5 安全管理・危機管理に関する研修・訓練の実施

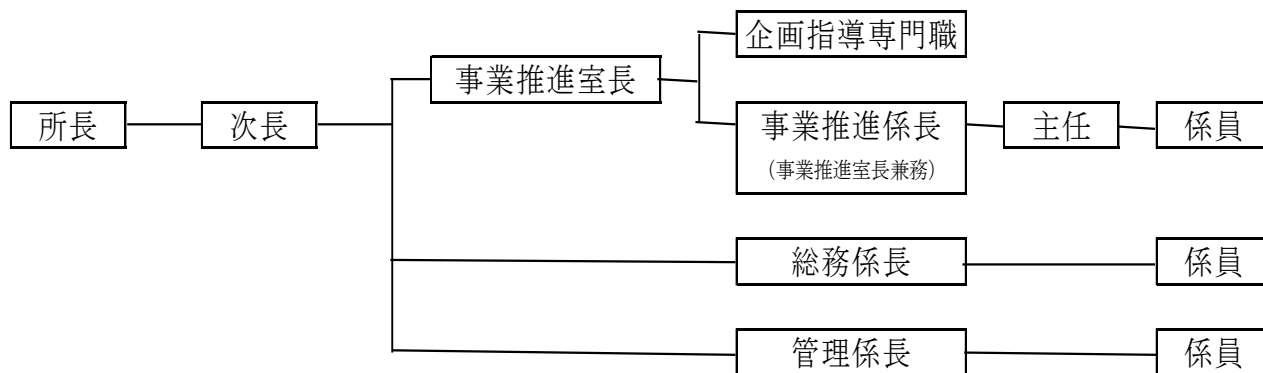
不測の事態等に関して、職員が迅速かつ適切な対応ができるよう、所内研修及び専門訓練等を確実に実施し、技術・熟練度の向上を図る。

6 緊急時の対応（火災・地震・自然災害等）

火災や地震、自然災害等の緊急時における職員の対応として、利用者の安全で速やかな避難、負傷者の適切な救助、汚染拡散防止（二次被害の防止）等に関する知識や技能を身に付けるとともに、防災に関する意識の高揚を図ることを目的に、避難訓練を年2回（火災・地震）実施する。

VI 業務運営に関する事項

1 組織



2 効率的・効果的な組織の運営

(1) 地域と連携した施設の管理運営

施設業務運営委員会の中に、NPO・企業・各種団体等の代表者が、実際に事業の企画・実施や施設の管理運営、施設の利用促進に参画する専門部会を設置し、効率的・効果的な施設の管理運営に努める。

また、地元企業等との連携も視野に入れ、特に青少年教育活動に賛同していただける企業と連携・協力しながら、教育事業を推進していくことも考慮していく。

(2) 計画的な人事評価

個々の能力を最大限に発揮させ、組織の活性化を図り効率的な事業運営に資するため、業績評価を年2回、能力評価を年1回実施する。

3 効率的な予算執行

管理運営経費縮減のため、既定経費の見直しを行うとともに業務の合理化により、対前年比5%以上の縮減を図る。

(1) 光熱水料の節減・節約

冷暖房の細かな運転管理、冷暖房吹出温度・期間の管理及び活動プログラムの調整により、効率的な活動計画を行い、光熱水料削減に努める。

また、利用者に対しても、打合せ時に節減協力の要請を積極的に行う。

(2) 適切な外部委託

外部委託業務の簡素化・効率化を検討し仕様内容の見直し等進めながら外部委託を行うとともに、業務が仕様書通りに履行されているか日々の状況確認を徹底する。

また、経費の必要性を検討し、職員でその業務の実施をする等、経費削減への対応に努める。

4 自己収入の確保

積極的にクラウドファンディングやネーミングライツなどの外部資金及び自己収入を確保して、事業運営への活用を図る。

(1) 協賛事業の積極的な推進

企業等への当施設の持つ機能の理解促進を図り、外部資金による事業等の実施に努める。

(2) 寄附金の受入の推進

青少年教育活動に理解を得るための広報活動を充実させ、ホームページへの掲載等による企業等からの寄附金の募集を積極的に行い、受入の推進を図り、寄附金の増加に努める。

(3) 受益者負担による収入の確保

自己収入の拡大を図るため、新規の受益者負担及び関連の制度見直しを行う。

(4) 土地・建物等の貸付及び清涼飲料水（自動販売機）の提供委託業務の工夫・改善

土地・建物等の貸付については、利用者の利便性を損なわないよう売店等とする。

また、清涼飲料等（自動販売機）の提供委託業務については、売上を考慮した商品の入替等を行い、手数料収入の増を図る。

(5) 受託実習生の積極的な受入

受託実習生について、受入体制を整備し、連携機関との連携を強化し、受入増を図る。

(6) 受託事業、協賛事業の積極的な事業推進

当施設の持つ機能の理解促進を図り、積極的に外部資金の確保に努める。

5 計画的な施設・設備の改修整備の実施

利用者が快適かつ安心して生活に過ごして、体験活動も効果的に実施されるように施設・設備の改修整備を進める。

また、既存施設・設備について、利用者アンケート、利用状況及び運営委員会等により利用者の意見やニーズの把握に努め、効率的な研修活動が図られるよう必要な改修整備を進める。特に、自然体験活動エリア内において、利用者の安全性を確保するため、緊急性・必要性を勘案し優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備等の改修整備を進める。

さらに、利用者の安全性及び利便性を優先するために、補修箇所を速やかに発見し対応できるよう職員による定期的な巡回の回数、範囲、方法や点検項目等の見直しを図る。

(1) 防災の観点に立った整備

安全な利用者の活動・生活環境の確保のため、老朽化している箇所の改修整備計画を立て、緊急性・必要性を勘案して優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備（インラインスケート場、マウンテンバイクコース等）の改修整備を進める。

(2) 研修環境の確保の観点に立った整備

研修環境の改善として、当施設のキャッチフレーズである「錦江湾・黄金の夕日 大隅」としての眺望を確保するよう環境整備を行う。

(3) 利用者の意見等を反映した整備

教育事業参加者、研修支援における利用者の意見や利用団体活動の多様化に対応するため、施設（管理研修棟・学習棟・宿泊棟・キャンプ場・新城海の家・太陽の家・いろり庵等）における生活環境の整備を進める。

(4) 高齢者及び身体の不自由な方に配慮した改修整備

高齢者及び身体の不自由な方が安心して快適な活動ができるように施設・設備の点検及び改修整備を進める。

I 青少年教育に関するモデルの事業

1 実践研究事業(1ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
1	文部科学省受託事業 海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや 厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。ま た、実践研究として体験活動の重要性の普及に努 める。	8. 6(日)～11(祝金) 5泊6日	小学5年生～中学生	20	鹿屋体育大学海洋 スポーツセンターほ か

2 特色化事業(1ーイ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
2	TRY CAMP inおおすみく 家	自然体験・生活体験を通して、子どもの豊かな情 操を養う。また、漂流物を通して、環境問題に自ら 取り組むきっかけとする。	5. 27(土)～28(日) 1泊2日	小学4年生～中学生	30	鹿屋体育大学

3 地域探究プログラム(1ーウ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
3	全国高校生体験活動顕彰 制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら 見出したりする探究活動を通して、ものごとを探 究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に 必要な考え方・知識を学習する。	7. 15(土)～17(祝月) 2泊3 日	県内高校1・2年生	15	鹿屋市観光協会ほ か

II 社会の要請に応える体験活動等事業

1 自然体験や読書活動等に親しむ事業(2ーア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
4	体験活動普及啓発事業 おおすみく家 キッズたん けんたい	小学校中学年の子どもたちが親を離れて共同 生活や自然体験活動を行い、仲間と関わる活動を 通して、自立心や自尊感情を育てる。	10. 28(土)～29(日) 1泊2日	小学3・4年生	40	
5	体験活動普及啓発事業お おすみく家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学 校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学 習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊 かな情操を養う。	1月～2月(全12回)内で2泊3日	小学4～6年生	各40	絵本専門士
6	SEA TO SUMMIT for Children	海や山、自転車の活動を通して、自然を大切に する心を養い、青少年の健全育成及び環境教育 を支援する。	10. 21(土)～22(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	20	鹿屋体育大学海洋 スポーツセンターほ か
7 8 9 10 11	日帰り親子ハイキング教室 ①～⑤	ハイキングや登山を身近に感じてもらうとともに、 チャレンジ精神を養い、達成感を味わう。	①10. 1(日) ②10. 9(祝月) ③10. 15(日) ④11. 5(日) ⑤11. 12(日)	子ども・家族	各30	鹿屋体育大学

2 自己成長や自己実現を図る事業(2ーイ)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
12	おおすみく家 スポーツキャンプ 【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体 力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるス ポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向 上を図り、青少年の自立を支援する。	6. 18(土) 1日	中学生部員及びその指 導者	80	鹿屋体育大学
13	おおすみく家 スポーツキャンプ 【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体 力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるス ポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向 上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 22(土) 1日	中学生部員及びその指 導者	80	鹿屋体育大学
14	おおすみく家 スポーツキャンプ 【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体 力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるス ポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向 上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 29(土)～30(日) 1泊2日	中学生部員及びその指 導者	80	鹿屋体育大学
15	ロボット・プログラミング体験 教室	ロボット操作やプログラミング学習を体験するこ とで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進 路や将来を考えるキャリア教育の機会となる。	9. 16(土)～17(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	20	鹿児島工業高等専 門学校 都城工業高等専門 学校
16	登山教室	登山を通して、自然と関わることの素晴らしさや スポーツとしての登山の楽しさを味わう。	11. 18(土)～19(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	20	霧島山岳会

17 18 19 20 21	スポーツクライミング教室①～⑤	スポーツクライミングを身近に感じてもらうとともに、困難に立ち向かうチャレンジ精神を養う。	① 12. 10(日) ② 12. 17(日) ③ 12. 24(日) ④ 1. 21(日) ⑤ 1. 28(日)	子ども・家族	各30	鹿屋体育大学
----------------------------	-----------------	--	---	--------	-----	--------

Ⅲ 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業(3-ア)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
22 23 24 25 26	おおすみくん家に遊びに来ませんか!! ①～⑤	不登校及び不登校傾向のある小・中学生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	① 6. 17(土) ② 8. 26(土) ③ 10. 21(土) ④ 11. 18(土) ⑤ 1. 20(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中学生	各30	鹿児島県教育庁高校教育課 学校教育 生徒指導班
27	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験・生活体験等を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。	7. 26(水)～27(木) 1泊2日	児童養護施設の児童生徒	20	仁風学園

Ⅳ 青少年教育指導者等の養成・資質向上研修

ボランティアの養成・研修事業(5-イa)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
28	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 3(土)～4(日) 1泊2日	高校生以上	41	大隅肝属地区消防組合ほか

Ⅴ 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
29 30 31	宿泊学習等利用者説明会 ①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	① 4. 12(水) ② 4. 19(水) ③ 8. 23(水)	学校・青少年団体等の引率者	各20	
32	子どもゆめ基金募集説明会【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和6年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	鹿児島 9. 3(土)	申請予定団体	各50	
33	フェスティバル秋inAMU広場	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	9. 10(日)	一般	3000	県内社会教育施設及び関連施設
34	ふれあいデー「フェスティバル冬inおおすみくん家」	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	12. 2(土)	一般	500	県内社会教育施設及び関連施設ほか

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

一般財団法人九州電気保安協会 鹿屋事業所

医療法人青仁会 池田病院

医療法人和敬会 平和台病院

大隅鹿屋病院

鹿屋衛生管理センター株式会社

株式会社ウォーターテック 西日本支店

株式会社園幸

株式会社南九

株式会社カナザワ

株式会社きたやま

株式会社宮生企画

株式会社コジマ工務店

株式会社坂元電気工事

株式会社桜島

株式会社新生社印刷

株式会社総合印刷

株式会社レモンガスかごしま 鹿屋支店

小鹿酒造株式会社

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

中外電工株式会社 鹿屋営業所

有限会社洵上事務器

有限会社松久保電機

有限会社森伊蔵酒造

有限会社泰夫水産

有限会社熊南空調システム

ワタキューセイモア株式会社 南九州営業所